



繪本豊臣勲功記

九編  
六

へ遠13  
2209  
86





八遠13 特  
2209  
86

繪本豐臣勲功記九編卷之六

目錄

殿下智計令秋月父子降

附決津津系

治津勢是叛人退去肥州

附新納智勇

繪本豐臣勲功記九編卷之六

目錄



新納子代川勇戦大破敵

附六将血戦

加藤清正即智欺敵大勝

附福清勇戦

繪本豊后勅切記九編卷之六

櫻澤堂山剛補

殿下智計令秋月父子降 属 筑城降参

金切素火とめて成火ハよく退して金徳白然とり。是

刈火切と金小腰与とるものおして此小清正が岩石城

と隘との勅切小寄を履下もそ是が部を覚して蒲生

が切と身一とを君臣巧小徳と練て天下と丹のおとく

小走らハ鳴呼神ありり子仙ありりも。然ちど小岩石城

論七ハ直ハ直不款地を結治をべいと始のごとく福

加茂新田蒲生と先陣として秋月種実が筑りこる小

隈大隈と新田のあいて秋月ありりお里十八丁と漏てり





の寨堡さやう不推おし進すすり。开ひらき此こ不あ秋あき月づきと根ね本ほん城じやうと據よ居ゐる。  
秋あき月づき統ちゆう前ぜん守しゆう種しゆ実じつ入い道だう宗そう岳かくが先せん祖そと探たん考かうする不ふ前ぜん漢かん言げん  
祖そ皇かう帝ていの後ご胤いん不ふして言げん祖そ不ふ子こ數あま多く在ある。それら  
り不ふ玄げん道だうの二ふた皇かう子しまゝ不ふよりて舟ふね不ふ系けいて短たん編へんを  
兒あま皇かう子しの舟ふねハ統ちゆうの前ぜん取しゆう不ふつき弟あに皇かう子しの舟ふねハ攝しやくテの列れつ  
不ふつく然しかる布ふど不ふ兄あに君きみ統ちゆう前ぜん志しテの郡ぐん不ふああがり去さ  
くぬひりりと國くに人ひと言げんして守しゆう護ご人ひととを後ご聖せい樹じゆの名なと記き  
祖そとぞいそと崇あがめて言げん祖その神かみ社しゃとをる是こゝ秋あき月づき原げん田でんの氏うぢ  
神かみとぞのこわり不ふ在ある。子こ孫そんお續つて原げん田でんと縣げんを太たい攝しやく別べつ  
不ふ涉せつら且かつつる弟あに王おう子しハ明あるの郷ごうの近ちかき迎むかひ大だい岳かく岳かくの岳かく  
迎むかひ上ありぬ。因よてもて大だい岳かくと氏うぢとせしとぞ。去さるる不ふ何なに

是こゝの時ときの皇かう帝てい不ふやおをしりん明あるの浦うら不ふ行ぎやうきまゝ  
一いつ。中ちゆう秋しゆうの月げつと遊ゆう覽らんある。此こゝ响おと此こゝ者もの大だい岳かく岳かくの海うみ迎むかひのまはし  
路ぢと露る掃はらしてありりりと皇かう帝ていやさしくも商しやうして何なん軍ぐん  
ぞと汎はんせくぬえバ大だい倉そう何なん某めいと喧けんまのうを呼よび忘わすれしめ  
不ふ迎むかひ不ふ栖せいもの。大だいくらと私しにる所ところ禰ねやある。後ご今いま秋あき月づき  
と名な号ごうぶふ倫りん言げんあり。因よて大だい倉そう氏うぢと廢あして秋あき月づきと稱しょう  
を。おをがとめ不ふ統ちゆう前ぜんある原げん田でん氏うぢも倫りん言げんの黍と稷しやくと名な  
て。秋あき月づきとこそ名な号ごうと其そのと累るい歴れきして今いま這こゝ不ふ種しゆ実じつが代だい  
不ふ臻しんまり。然しか程ほど不ふ秋あき月づき入いる末まつ岳かくハ子こ息そく三さん帝てい守しゆう不ふ任にん長ちやう門もん種しゆ  
長ちやうをもて本ほん城じやう秋あき月づきと堅けん牢らう不ふ獲とくらせ。その身みハ尺しやく里り程ほどの  
東ひがし不ふ出しゅつ張ちやう統ちゆう岳かくの場ばうの絶つた所ところと兄あに擇たく小こ隈かい山さんといふ不ふ小こ岳かく不ふ



一座の塞壁と結構して。麾下の軍を連ふんとす。然ども  
 火急の懐発ゆえ末二廓の兵も戻らむ。人支と激して。  
 外廓と修理するといえども。土牆射橋など壁もすつと  
 く塗ざらば。弓子廻来りて。岩石の城陥滅あり。麾下の大  
 軍糧勢さあがり。破竹の條く。高城さして。推進るより。息  
 次。敵を注伸せり。秋月入及おわひ。小鷲怖し。方僅要害の  
 地と據えて。此城不出強さるといえども。塞壁の結構あ  
 り。バ小至らむ。壁をさき。小搦籠る。ハ壁のいえり。と  
 りつて。大海水と避ふ。小似たり。一庭。秋月の。中居。小退き。  
 エ。支をべし。と心と決し。速時。小秋月の。城。小退。去。敵の。蹠  
 蹠。と。う。り。ぐ。と。ま。る。小。麾下の。大軍。蟻。蜂。の。お。と。く。敵。對。せ

んこと備ひがごとく。惣小干戈と交へんより。降参する。小  
 ハ如くとおもへど。子息。種。長。小。豫。して。の。ち。と。心。中。の。ま  
 ど。定。ま。る。む。進。退。の。途。小。迷。ひ。在。り。斯。て。冬。居。下。小。ハ。  
 軍と進め。とぬふといえども。子と急ふ。ハ。一。玉。を。以。密  
 小。清。正。と。振。り。せ。と。ぬ。ひ。汝。が。居。家。小。代。下。総。赤。星。太。弟。名  
 清の。兩人。ハ。肥。後。の。國。の。産。み。て。父。兄。彼。所。小。牢。城。を。る  
 よし。然。され。ば。古。々。の。こ。と。小。一。て。子。と。謀。る。小。便。宜。あり。  
 斯く。如。く。の。計。議。と。も。て。行。ふ。べし。と。命。じ。玉。小。清。正。子。細  
 小。領。承。ふ。し。我。陣。小。立。返。り。赤。星。小。代。小。豫。合。せ。て。其。扱。の  
 う。ち。小。み。そ。れ。ぐ。の。用。意。な。さ。せ。て。出。立。せ。り。陪。り。乃  
 る。こ。と。の。あ。り。と。も。知。ら。ず。て。秋。月。入。還。家。者。ハ。子。息。種。長。も



ろとも小秋月の存亡と憐しき一りり所不預て法方へ出  
 金しる情名の軍馳返り入道不告ていたく園里の塘鞍  
 と承る小肥前死後の城將達秀右の威勢不怖て降参  
 飛ちんさめ日くおく小使者と責らせ明日あん此門彼  
 門より降参あして小隈陣と居下小隈ふの城へ馳参る  
 といふ風聞ぞふと告ると聆て秋月種実心中念をく  
 研るといえども己見まじ降参の心あり惟りハ秀右不  
 怖をざるべき矣ふく不思儀の名將あり街巷の塘鞍  
 実り虚り隔日と後あハ分明あうん眼筋不見さうえ  
 心と決しもふさんと曉ると待て射橋不登り肥前後筑  
 後の路條と目も放とぞ不見守り在り其日も己午の

後ある頃肥前の方より一隊の軍馬匆くと馳来り何  
 者ふやと近づくまふ不暗と決て去て行ハ正先不降参  
 と書しる箒と推立させハ松浦大村の法將ありま  
 東ある肥後口よりも降参の旗と先不立させ終くと  
 て来りるものハ宇土相良親本小代赤星求麻八代の法  
 將跟と連れて降人とあり相立を種実心中大不降参  
 新てハ延引をべりるを吾も速不降参せんと昂地不子  
 息種長と呼ぶ此義と狭して小隈の城不使者とをを  
 従来清津不属すること止ことと得ざるゆえあり速参  
 の死免免あうハ父子法共不濟自分不参し身と抱て忠  
 勤と勵ますわくまべりと取次をもて言上を及下こと

豊臣評力辨者之六

三





関白殿  
下智と  
馳らせ  
秋月父  
子と降  
参せし





と駭しめさせ、遂に拍て矢をせよ。此度秋月は降参。小  
 代赤星が切参。小こそのおは陪居。とまども賞をべし。若  
 彼兩人ありりせば、秋月をもて欺き得ぐらうりらも  
 のと。清正ともて、山藪あり。最早秋月降る。おおひて  
 へ。早く進發の用意とせよ。それくへ。山下知あり。信  
 名秋月への水谷。降参の神女あり。早く来りて、自方  
 をべしと作せて、使者と帰させよ。ぬふ種。実父子。此相と  
 関。欽悦。まらこと斜。あま。秀吉。公。お。茶。と。好。ま。せ。お。ふ  
 と。安。降。系。の。呈。物。お。秘。藏。の。茶。器。と。献。ら。ん。と。花。吹。雪  
 と。い。ふ。釜。と。持。齋。して。小。隈。の。城。お。参。候。せ。い。わ。バ。別。地。に  
 前。お。昭。出。させ。秋月。父子。お。向。を。せ。よ。ひ。先。取。と。草。め。降。ら

る。条。矣。神。妙。の。舉。止。あり。本。領。安。途。疑。ふ。べ。り。と。向。后  
 秀。吉。が。卦。く。所。よ。く。先。陣。お。進。ま。せ。て。案。内。お。是。と。宣。ひ。ら  
 じ。バ。秋。月。父。子。り。と。ト。け。あ。し。と。奉。ま。い。り。せ。岩。石。城。の  
 勇。士。が。み。な。ど。水。懸。の。命。と。蒙。り。て。先。陣。の。手。お。加。え。り。ぬ。  
 翌。日。殿。下。お。い。小。隈。の。城。と。進。發。あり。洗。桶。へ。水。陣。と。移  
 させ。ぬ。ひ。軍。威。と。示。ま。す。情。大。あり。これ。九。國。士。の。降。参  
 と。招。け。せ。ぬ。ふ。水。針。強。あり。小。果。して。高。國。の。徳。城。奉。て  
 水。自。方。お。弛。参。る。こ。是。お。依。て。再。び。秋。月。へ。水。陣。と。移。さ。ら。  
 お。是。四。月。の。十。六。日。あり。同。北。一。日。お。筑。後。國。宮。良。山。へ  
 清。法。堂。ま。ま。さ。ら。り。時。お。秋。月。入。乃。宋。呂。履。下。へ。水。自。方  
 あり。ま。い。り。を。控。お。一。の。切。と。ま。んと。水。前。へ。出。て。言。し。ら



るハ乃老降のろく不出いるといどもいま一いつの切きりも立た得えむ。  
 帰かへくバ赤免あかひと蒙あり肥前ひぜん肥後ひごの輩ともと赤あ自みづか方かた不ま招まねきとふ  
 べふあり幸さいわいひ時ときの佐さ勇ゆう士し達たち乃老父のろふ子こが赤あ自みづか方かた不ま  
 参まゐりていまぞ存ぞんぜむとあはれ不ふ因ゆて新納しんなん伊集院いじゅういん等らと  
 下あき小こ欺あき彼國かのくにの佐さ士しと加支かをん不ふハ必かな定ぢやう陣ぢんへ池い  
 集まるべいと。もうとと殿た下げ聆りしめし殊ことの外あ不ま喜き悦えまし  
 まし種た実じつをもて取ひ取り不まを入い道どう二に人にんの佐さ士しと率ひ  
 ひ肥前ひぜんの國くに不あむり色いろ松浦まつら大村おほむらの輩とも不あ對たい面めん一いつ降くだ参まのり  
 と勤しんめりり不あ此者このもの元來もとよりその急いそちらふととも後ご來き降くだ取と  
 と言い投なべり便べん官くわんと得えざるのこあはれ時ときが軍ぐん督とく國こく中ちゆう  
 不あ亮りやうて密みつ子しの漏もんこととおそれ今いままで懸か止と在いたりし

ぐ此度このたび秋月あきづきの勤しんめ不あ因ゆて忽たち地ぢ不ま心こころと決くわし降くだるべき旨たま  
 諾だく回かいしり色いろ入い道どう渠みち侍し不あ割わり符ふと授さづけ言こと良山らやまへ集まるべき  
 よし子こ細こ不あ確たし不あ地ぢ不ま肥ひ後ごへ勤しんめ此國このくに不あ時とき家け  
 の名な士し時とき時とき獨ひとり久ひさととめ新納しんなん忠ちゆう元げん伊集院いじゅういん忠ちゆう棟とう所ところ田でん久きう  
 信のぶ等ら佐さ不あ在あ陣ぢんありりり中ちゆう不あ新納しんなん武ぶ義ぎ守しゅハ隈府くまふ  
 の城しろ不あ義ぎらるりりゆえまづ此一將このいつしやうと欺あんと隈府くまふ不あ到たう  
 りて入道いどうが牢城らうじやう秘ひひがたり色いろバ救すけとをせんしめ不あ来き  
 ると不あ誠まことしやり不あ言こと入いる不あ忠ちゆう元げん義ぎ信しん不あ至いたる士し不あ是こゝ  
 不あ入い道どうと救すけもてやとと合志がうし不あ在ありり伊集院いじゅういん忠ちゆう棟とう不あも  
 通として秋月あきづきの城しろと助すけらんごと其用そのよう言こと不あ及およむとたり。  
 入道いどう宋そう長ちやうの城しろ一いつとひそり不あ飲いんびそれより銀本ぎんぽん

豊臣九編卷之二



宇土相良言木幸田の砦城小到り。利解と述て降系と勤  
 めりり小態本小十希と始として風下の草の靡くが如  
 く。各先と競ひ言良山の陣小到り降系と乞ひりり小  
 そ。后下西懇の縦意あつて本領安達さしめりり由え。  
 皆在躍して兵後志りり。こはら中赤星將監辰成小  
 代左弟の尉壽長といふ者あり最際き先將小して仁里  
 小。匪且宅セど義路小あさざ色バ返を。こはら小  
 容易く后下小帰服セむ斯と因より主計頭赤星太郎名  
 清小代下総と近く招き原某方等西人ハ武者修初のお  
 國と出て深き宿縁のありりり小や思をさりき吾家屋  
 とある。然り小今程故國ある赤星小城の西城小義勇と

守りて牢城志つりハた希各清の父下総の昆兒あり汝  
 等父兄が許小至り。去理と説て帰服させあハ甚切最も  
 大ありと。もうさ色りり小ぞ小代赤星子細小か。こ  
 ひありと。後者一人ともをぐ。む昔日修初小出。相  
 小て下総ハ昆兒あり小代の城小路と急ぎ念を希各清  
 ハ父の居城赤星と當して近きりり。翌日ハをや兩人  
 とも故小到り父兄小對面して對話小義信とを。と  
 いえども先強の義勇活く西小帰。東小服。ハ是人中  
 の州木心あり。生色あぐ。の武士小して。皓る。程小耻  
 ざりべき。然ハさりあぐ。帰降セざん。ハ子。上。義。忠。義  
 也徒あり。今ハをや。い。り。小。せん。世と。逃。る。の。外ハ。あ。る

豊後言ノ新編



元來小城赤星の兄弟の義を期せり。同の小城と捨て  
去らん汝侪よき小穢らえとて百邊あはれと効むはども。  
心神さなぐは疾石のおとく。將監尤もつ流若小神と拂  
ふて阿蘇山の峯深くこそ今入り也

阿蘇山見教人選去肥別 属 新納智勇

悪めハ周我も死ありとまゐる首陽小薇味と其んどり  
。彼伯夷叔齊も亦らざりらる赤星小代が父兄の情  
志ハ日本小夫子出るあはれ論と後乃て秘をへき小守  
知らざる人多きハいとわふ惜りらざらめや然布と  
小赤星尤も弟共清小城下総の西人のあはれく高良小立  
ぬり及兄の譽止おちもなく主人清正小告らる小ぞ清

正あぬとくび嘆息。是と後下へ言状あはれハ。後下小  
も悲感ましく。志むく阿蘇山と尋ねさせむひらる  
小將監の在所ハ知ぬはども尤清つ射が行果ハ尋ね果  
さざりらる。後下とづら理と迫て。遂小將監と後城あ  
さしめ。本領安途あさしめハ。仁徳もつとも厚りし。  
あはれらの徳風と慕るものうら。歌をる國人あてなく統  
肥後後の城將ハ皆悉く後下小服。降集ひきもきとむ  
して百川東小帰入して共小海水小交むるがおと。浩  
々先頃新納武彦守信集院右清つ右丈ハ。秋月種彦が  
洞と信下。子息種長が籠りらる。秋月の城と救ちんと國  
士と催促しらる小。然本相良宇土の人。新納信集院の

豊田詩九編卷之六



下知小名せむ教討色と見しりりゆえ忠元忠棟あるひ  
 へ怒り或ハ驚きまは秋月がさざふして熊本宇土の成  
 士輩が殺心する不及んでハ餘人も亦殺む小治ふ一惣  
 又踏止まらば獲毆の難危小違ん國人の伎ふらん  
 ち一名自國小退去ふ一討後設け根を固めて秀吉を伐  
 んまめりのと隈府合志の兩城と互退時津端久所田久信  
 等法共ふ八代の株小見合りり小宮城有馬の軍も既小  
 及下へ降参しつ手始の切小時津勢と手断の院と見え  
 んものと軍船殺多八代の澳小抵並べ或ハ徳所と放火  
 ふどして時津勢と怖さんと及小芦木田の軍ハ薩戸勢  
 が退く路條杭の瀬頭と捕断て退路と遮んと構えたり。

然ども智勇の新納伊集院此も勅むる氣色なく進希退  
 後の伎と固め八代の城と引退て薩長へ退てゆく其ハ  
 通さどと芦木田の軍此彼小降犯ふ一杭取の難所と遮  
 えたり。新納忠元冷笑ひ近來までハ自方とありて命を  
 継ぐる徳病我士が上方勢の威を借て心と後むる笑止  
 さよ様小伴ふ物猫の拳止義百萬ふて逸ゆるとも何程  
 のふとりせん某士とづら正斜小進も奴等と跑散し  
 乃と開うん伊集院ハ後陣と行て退ぞり且よと。もう一  
 乃ら小名徳勇士こは小同急やと見整くとして行隊を  
 先陣とて小杭瀬小迫づきり且ハ一換の軍大勢と怖と  
 ふ一。平生鬼神の如く怖し。新納が軍勢と遮えたり我輩



守ハ法勢不指揮不。渠奴倚ハ俄不敗集一之。号令も  
 知らぬ。勿武者あり。一搦不飽散をべ一と。忠元正先不馬  
 と進ませ。文條の殘棒と火車の如く不振也。一彈り立と  
 る。款中へ墮愛のおとく。喫て猛入。横不まを縦不ま。一  
 万むりりの一揆武者と何の苦も不拊ち。一凍然と  
 して推通り。薩及大口までぞ退入。り。浩りり。布ど不  
 肥希能後の兩國不ハ。碓氷の武士一騎も在らで。八代在  
 任の輩さへ。忽地。ろと。復履して。取下へ降参。あ。り  
 る。由え。九命の六と。平均。りり。時不取。下。備軍と進め  
 て。御陣と八代不後させ。玉不九。鬼。淡。壁。倚。不。命。せ。ら。れ。て。  
 數百の體縁と。藏不。一。又。月。の。八。日。佐。後。の。陣。より。出。初。ま

一。く。薩。及。出。水。一。津。進。發。ある。甚。ハ。圍。き。此。不。碓。氷。修。理  
 太。丈。義。久。同。名。庫。頭。義。弘。及。子。ハ。此。响。日。及。矣。崎。郡。不。出。張  
 一。り。り。が。此。方。不。進。る。上。方。勢。ハ。大。和。大。納。言。秀。長。々。と。大  
 將。と。して。先。利。吉。川。小。早。川。馬。田。陣。須。賀。浮。田。南。條。こ。ま。ら  
 の。徳。軍。一。同。不。守。城。と。き。び。一。く。圍。え。佐。土。原。の。途。條。不。陣  
 と。堅。め。て。碓。氷。の。後。逼。と。遮。り。あ。ん。ど。隊。仗。嚴。重。あり。一  
 り。ハ。義。久。及。子。今。ハ。な。や。守。城。と。救。ふ。あ。と。あ。と。を。徒。不  
 日。と。還。り。浩。る。所。不。肥。後。の。より。急。と。あ。て。淫。進。志。り。り  
 ハ。肥。後。の。軍。あ。と。一。く。を。秀。吉。の。威。不。恐。怖。して。殘。り。あ。く  
 降。参。せ。り。こ。ま。不。固。て。新。納。保。集。院。所。田。の。人。々。彼。國。不。出  
 張。さ。り。不。使。不。く。大。口。ま。で。退。陣。せ。り。を。以。ら。ひ。ぬ。と。聆。て



義久うち驚き斯てハ吾も此所不出陣さるとも蓋ある  
まじ。まづ麻児崎不帰城して。根本と固ふせむんハ。ある  
べり。とと陣後の折衝言城の細作来りて。彼城あはま  
で。折衝もども。後逼の西勢もあはまき也。えり抗力そ  
て。牢城叶え。遂に降参ふ。及びりりと。告る。不義久今ハ  
をや。退陣の外ありらべしと。折衝家久。不此方と守ら  
ぬ。父子諸君。不薩及鹿兒崎へ。退陣せしむ。斯て。志新納  
武藏守。伊集院右衛門太史。倚ハ。大にまで。退陣志らる。が。  
辰下の西勢。海陸より。推進ると。同より。も。防戦の用意と  
せん。と。陣從志らる。その所へ。麻児崎より。使者来りて。義  
久。義弘。両大。本城。不取陣まじ。く。軍議。陣從志らる。ある

不周。法將。悉く。取陣まじ。と。告来る。不ぞ。伊集院ハ。亥不  
もと。たも。ひ。太守の。命令。背く。べり。と。志急。本城。鹿兒崎  
不。到り。下。知と。更ん。といふ。と。忠元。否。款。己。不。服。参。不。逼り。  
此地。と。退り。ハ。徳。病。の名。と。蒙。らん。其。上。崎。津。家。吉。来。より。  
他。國。の。名。不。薩。及。鹿。の。土。と。踏。せ。一。例。な。一。我。く。此。地。と。退。く  
時。ハ。秀。右。忽。ち。名。と。進。めて。繞。で。國中。へ。亂。入。ま。じ。一。款。不  
容易。子。代。川。と。執。させ。ん。子。ハ。崎。津。家。の。末。代。まで。の。耻。不  
一。て。朽。憾。こと。あ。ま。る。む。人。ハ。右。も。あ。ま。乃。士。不。お。ひ。て  
ハ。千。代。川。不。陣。と。固。めて。款。進。来。ら。ハ。快。よく。退。散。ま。じ。一  
と。も。う。ま。と。忠。棟。足。下。の。了。然。然。る。こと。あ。ま。ま。と。も。室。人。の  
召。不。意。せ。ざる。ハ。居。る。の。乃。と。脊。く。不。似。り。ま。つ。と。秀

義久日記編年一六



右の軍勢も急小へ進るまともあらずと。いたせも果む。  
 此は是下小も似合ぬ細と室ふものうか。故兵急小へ来  
 るまじと用意もあさて。於縁なき際不念と毆るも  
 のあま。軍強も何の益らあらん。近來中國の軍と闘小。  
 秀吉敵とまらるまとい。強小猿狒が木傳ふおとく。不  
 強小素子き大將あるよし。若やを自方の懐中袴下小減  
 と容るるの密計と用ゆるまともあらずんや。を乃士  
 志むく痛心せり。仲勢大敵といふとたもえ。唯用心  
 小如いあし。大守の招使あまはとて。軍門小君命あし。一  
 方の將と奉る乃士軍子小利益あらん小。君命より  
 とも背ておとせと行ふら大將より者。軌制あり。矧や國

家の存亡安危と量りて。こゝ小止まんと欲する小。何  
 の不可あり。みらあるべき。此よりして。我一隊止まり守  
 らば。別案ありまじ。是下へ強將と強共小歸軍せし。是て。  
 大守の軍強と承所。良策あま。速小知さるべし。と言  
 り。ゆえ。伊集院も実小もとたもひ。然らば。我等ハ本城  
 小赴くべし。とて。退去の用意あし。らると。橋津嶋久あを  
 思ふとあし。新納一隊と残さん。もい。うが。あま。は。与力よりきの  
 勢と副壺べし。とて。種徳大將。伊勢名。助。女。捕。川。上。尤。近。將  
 監。松。尾。隼。人。の。四。將。と。止。め。こ。是。ら。と。新。納。小。加。勢。あ。さ。し。  
 め。其。余。ハ。却。て。兵。士。と。纏。め。麻。呂。崎。當。て。ぞ。引。退。く。こ。是。小  
 周。て。新。納。武。藏。守。忠。元。ハ。四。隊。の。軍。勢。二。万。余。騎。と。我。隊。の

豊臣評大綱卷之六

十三



軍率三子余蔭と三股小分て子代川と後小陣と立すり。  
 時小伴勢名助貞昌新納小留ふて申りらやう。己は弱年  
 とも願む吳見とゆうまも鳥隣小へあまど。今進來る上  
 方勢十四万もあるが上小肥統の國士弛加をりて二  
 十万小も余る款と自方の僅小二万三子をりり小  
 て彼小款一もふおとい意得がくくひをむや殊小大河  
 と後小當るハ韓信背水の陣小較ふて退去の心と断志  
 むる。ハ料簡あんぬべりまど。目小余るおどの款あるも  
 のと如何でう勝利の得らるべき最も我侪ハ戦死をべ  
 き覚悟あき小もあうさまど。益益小死すハハ忠忠あう  
 む。然されハ古法と用ひくぬハ大河と前小引受て款魯

河の守返ると改せ玉を易うらん小我忍の思慮ハ  
 いづ小やと。もうまを忠元覺示と笑ハ。笑小最あう吳  
 見あり。吾今水と脊小して陣と取る小汝意あり。いづ小  
 も豆下のいふおとく二十万小余る大款と十合一の自  
 方の勢小て我をんと搦申ハ。殆危きおと小あん増て  
 款をら大將ハ日本大宰改佐え一智深無双の秀吉あり。  
 侍従の武士小も御参の倫家欺りく。然まハ韓信再來  
 して。背水の陣と破るとも勝利と得ることおもひもあ  
 らむ。我今小勢の自方をもつて背水の陣と布らるまど。  
 款小勝んと謀る小あうま三の所存あつての所憐あり。  
 允西海九國の軍海津の名小出全時ハ。目小こぬ鬼神の





新納武藏  
守千代川を  
背ふ陣と  
結構諸將と  
勇猛を語ふ





やうに不忠怖し。自方不属し。りりゆえ。不中國。四國上。方ま  
 ても。信津が勇猛ありと知る。然るに。此度。胆柴秀吉。大軍  
 と率て。下向せし。其威。不怖て。肥後。豊の。獲病。未練。ある。疑  
 族。と。秀吉。不降。奉せり。こそ。か。と。ゆ。不。吾。併。も。念。上。方。智  
 子。合。も。七。七。肥。後。と。退。陣。せし。こと。ハ。是。非。なき。研。習。と  
 しい。ひ。あ。ら。う。平生。の。戎。名。を。消。し。不。似。て。誠。不。無。念。の。至  
 あり。我。く。こ。ま。ま。て。退。き。し。と。敵。ハ。自。己。が。勇。不。因。て。逃。つ  
 る。もの。と。思。ふ。べし。然。る。に。我。々。此。地。を。退。て。敵。不。河。を。涉  
 さ。せ。な。ら。い。よ。く。信。津。家。の。名。折。と。あり。守。る。べ。き。所。と  
 も。と。て。本。城。ま。で。も。逃。入。し。な。ど。敢。と。り。う。ら。う。ハ。累。代。積  
 熟。の。武。威。を。も。て。一。時。不。磨。滅。する。不。あ。ら。ざ。や。ま。の。故。不

我。小。勢。な。れ。ども。威。を。見。せん。と。め。河。を。脊。不。し。て。敵。の。大  
 軍。と。待。こ。し。信。津。の。戎。名。を。滅。せ。ま。し。き。と。是。ひ。と。つ。吾  
 々。那。般。不。大。敵。と。も。怖。ま。さ。然。も。脊。水。の。陣。と。布。こ。し。敵。の  
 心。と。疑。え。し。む。る。方。便。の。二。つ。智。計。の。秀。吉。君。の。隊。伍。を  
 見。る。もの。あ。ら。う。ば。よ。も。一。隊。と。ハ。思。ふ。ま。し。埋。伏。奇。兵。の。謀  
 計。あ。ら。ん。と。己。が。智。恵。不。惑。を。さ。せ。急。忽。不。蒐。る。こと。あ。ら  
 べ。う。と。も。疑。ふ。こ。ろ。あ。ら。う。時。ハ。進。退。自。由。あ。り。が。と。く。大  
 軍。な。れ。ども。自。然。と。固。し。そ。自。方。ハ。安。穩。の。地。不。あ。つ。て。戦  
 を。む。し。て。勝。の。利。あり。敵。無。縁。し。て。進。ま。さ。ん。ハ。此。方。より  
 進。進。な。さん。然。さ。れ。ば。い。よ。く。梳。疑。を。生。じ。て。狼。狽。嗚。ぐ  
 虚。不。案。ト。本。陣。ま。で。も。突。入。て。猿。面。冠。者。が。首。と。と。ん。浩。る

豊臣言九條卷二

十一



三箇の思慮あつて。斯まであやふき陣を立たり。ことへ  
 研存と遂果せむとも。自方ハ進退もつとも易し。大敵  
 ありとて怖るゝあとりハ。各うあゝむ心と寧し。陸合軍  
 威と示さるべしと。子孫ハ軍勢を演らるるは。負昌所  
 て大不感轟一。教のごとく隊伍とらとめて。敵の進ると  
 侍菟より

新納子代川勇戦大破敵 属 古将血戦

言今の戦場和漢とも。河ハ接こと志むく。あり。淮陰侯  
 が背水ハ。智ともつて。敵と破り。張翼徳が長坂坡ハ  
 ひとへ。小勇と見まの。治兼元曆の宇治川ハ。河の流と  
 新むの。の忠忠元が軍配ハ。彼等ハ比をれハ。百勝を矣

小為津家の換礎金柱より。四將とあそ覺へ。こと信之大  
 將義久ハ。早くも本城鹿見橋ハ。退き法將を集めて。陣  
 不。敵と破るの計儀を示し。新納忠元が智勇と助り得  
 させん。と。まつ。伴集院忠棟ハ。三子余猪の衆と授け。子代  
 川の南岸ハ。休させんと。平地ハ。本城と立せ。それより  
 次弟ハ。謀計の方便ハ。よりつて。軍配せらる。こと小よつて  
 伴集院ハ。子代川の南ハ。到り。計儀を新納ハ。告知せ。故  
 も。河と渡る。あゝハ。微塵ハ。あさんと。謀り。わハ。小ぞ。武  
 義身も。大不感。び。新納が。研存の。布ど。おも。通し。兩條の。う  
 ちの。づ。き。小。して。り。敵と。破ら。て。や。ハ。あ。ら。べ。き。と。上。方。勢  
 の。推。進。る。と。曉。す。小。い。さん。で。侍。菟。より。然。布。ど。小。殿。下。秀



吉公ハ佐布の浦より西船をのびさし薩下の國出水取  
 小江為あり。と見よりの直地小代川まで進まふべき所  
 あり。小先陣松浦大村より使ともつて言状まゝく款各  
 千代川の此方小陣取六川向小も大軍小て陣を列ぬる  
 相見えい恐くハ計儀を改りてお侍と覺ゆるありと言  
 すと最下所しゆ。然ハ此方の軍勢も水陸二方小立  
 きて推進へしと西下知あり陸より却く軍小ハ加茂主  
 針頭清正蒲生飛騨守氏竹福崎九郎門太史正別茶田肥  
 前守利長佐々陸奥守成政小西松津守行長池田三左衛  
 つ輝政筒井伴成守貞次堀九郎門耐秀政等惣大将秀吉  
 公小ハ後陣を逼て魏く壹くと進發をまつと船小の補

將小ハ加茂九馬助赤明服坂中務女補康治九鬼大隅守  
 赤隆侘敷百艘の薩縣小。おもひくくの船標家くの夜を  
 印しし。親帆杖帆と吹張らせ凍くとしと推進る。海陸  
 二方の惣軍勢都合二十三万余騎。今や薩陽の山谷も推  
 崩さまく怪しまる。時小最下細佐の兵とをさき見款の  
 橋子と窺をせり。小東面見して返て言状まゝく。橋子  
 の軍勢二万余小て。河の此方小佐と立戦をん。小と香小  
 まる。とお見えい。唯川向の陣列ハ佐怪しく覺ゆるあり  
 と所しゆ。さきて秀吉公此子代川と東西見せん。小ハ尋  
 常小見渡さとも。突を知る。小あこふま。とつり。乃て  
 款の虚実と看破をべしと作ら。大膽小も。清馬小。清馬



大軍と  
 薩州千代  
 川に進め  
 殿下自ら  
 大切通の  
 絶項ふ  
 東西観  
 給ふ



豊臣言九終卷之六

七



豊臣言九終卷之六

八



津近士扈從とづり小俱せし千代川より北余丁此方  
 あり。大切通の絶頂小登らせしひ川の最後小使えと  
 る。敵の陣營小心と属熟くとし流ありて本陣小帰ら  
 せしぬひ佐將小告て室をく実小薩忍の輩ハ我と連せ  
 るの期小除てハ身命ともて名小換るの勇士あどんど  
 多りりり。今子代川の陣とくる小其勢とづり小二万  
 小足らて君大軍小敵對せん。川と後小使えしるま  
 ちを新納備が程威と張り。自國の武勇と損さぐらまく。  
 料らふものと覚えしり。志りる小脊水の一陣ハ女の思  
 杖あるべしととも指しる針張ありとも秀えむ。然し自  
 方より隈小蒐ることあり。是敵の動くと見て后小合戦

走べしと山下知あり。再び佐と推し出さし敵の使えし其  
 と十町をりり掛藩て。山林谷野四十余町がそのうち  
 小漫くとして列陣せし。此時新納備武勇守ハ敵の進る  
 ときくよりも定て多勢と輕として攻蒐るべしと思ふ  
 小遠ふて十町をりりの男小推逼佐と立て急小蒐らん  
 ともせざし。佐こそ彼りし針張小遠をハ執疑と起し  
 て將隊をあるん。然ハ此方より進進ふ。我勇猛の布と  
 と見せつけ其虚小察して秀吉が本陣へ突入らんと。吾  
 子の精兵三子余騎を長蛇小使え。勃然として推し出さし。忠  
 元正斜小馬騎放て。例の疎棒と亦振る。上方勢の先陣  
 あり。筑紫上野助弘藤が伏小赤て蒐る。筑紫も名小負ふ

豊臣記九卷之六



勇將をばい子勢不下知して経合せ攻崩さんとまる所  
 と忠元疎持より火風を發し暮地不弛て入り奮然と一  
 て向ふ所の人馬と操をば止く暴不置てぞ経也る  
 統案が軍各肝と冷し恐怖さるおと鬼神のおとく散く  
 不致走走期と秀るより二陣不依え一松浦式が女陣結  
 信子勢と率て推出し統案の故告と助らんと新納が隊  
 不突て蕙る武藏守の冷笑ひ回音もふく抛散らせべ  
 此勢ひ不雅らぬ敵まら各士のおるはあそ右横左横不  
 散乱しける忠元大喝連叫して三陣不依え一太村飛澤  
 守正長が子不赤て蕙り共崩不亂殺しはまばこづら不  
 さへ戦ひしうども激りうゑて惣崩ととある最も新

納忠元の上奇特と始ての合戦をば薩平武者が勇と  
 も知しぬ且の殿下の本陣へ突入らんとの一心ふまば  
 分外の程威とふるひ一世の奮勇をたぬぬめりと鬼神  
 天狗も物ぐべき横相と狂をし縦横無礙不折立まば向  
 ふ者の騎兵歩卒陣あまむとゆふことふく瞬くうち不  
 巖丘血河身の毛も豎つちりあり秀吉公の御本陣よ  
 りまららみ此体と水鏡あり先隊の強將不作後れはる  
 申すの最もや川より此方不敵の謀計の考てふし然ま  
 且ば尋者の敵と心得勇をそして戦ふべし然りといへ  
 ども此敵の誇津家無双の勇將をば決して撃んむべ  
 うろむと下知あらふぞ強勢もまこし安途のおもひ







其勇と知らしめて活機とおとさしつらん。其軍勵めと  
 呼たりあぐら。烈然として殺発あり。三四遍布と接尾乃  
 る。此も揺らむ忽然と倭にあつてとえらむところ  
 と此圖と笑ふべり。むと云二無三不拵立とバ。怖るの  
 つきくる品武者右倭尤例不礼を七陣不ある。小西が  
 勢も筒井が勢も倭寇ら共品不あつて彼北を武蔵守  
 ハ正斜不進。此不あり彼不あり。疾の捲も湯とあり  
 までと力限り根りきり千裂万摧の血烟。天地も昏む  
 たりあり。第八陣不倭え。福清尤東門太史正斜不  
 細が横烈の相とそて我ハ先陣の一將不。正斜不  
 そ戦ふべきと。ふまづいふ案内の軍益の合戦倭初て。

自分の軍威と笑ひつら。こそ安うらね薩テの勇士を  
 むとて。天魔鬼神ハよもあらず。先考良家の勇武と見  
 らつけ。倭武者の我と初ぐんと嘆きあぐら。隊伍と操  
 出。まげく指揮して急不進めバ。おふとく八陣の尤  
 不倭え。加差を計頭。清正共不倭と推し。尤右ひと  
 しく。陰算ると倭寇新納が各と中不捉。算あぬまま。と  
 突暮る武蔵守ハ。これを奪て。この款將こそ尋常の勇士  
 不ハあらず。其忽の揮あるま。と。二不立合て左  
 右の款將と。引更戦をんと。とるもあらず。せむ。元末短氣  
 の福清正斜。清正より先不暮らんと。有無とも。見えむ。旋  
 風の如く。正一門地不。あて暮り。唯一播不。散さんと。烈

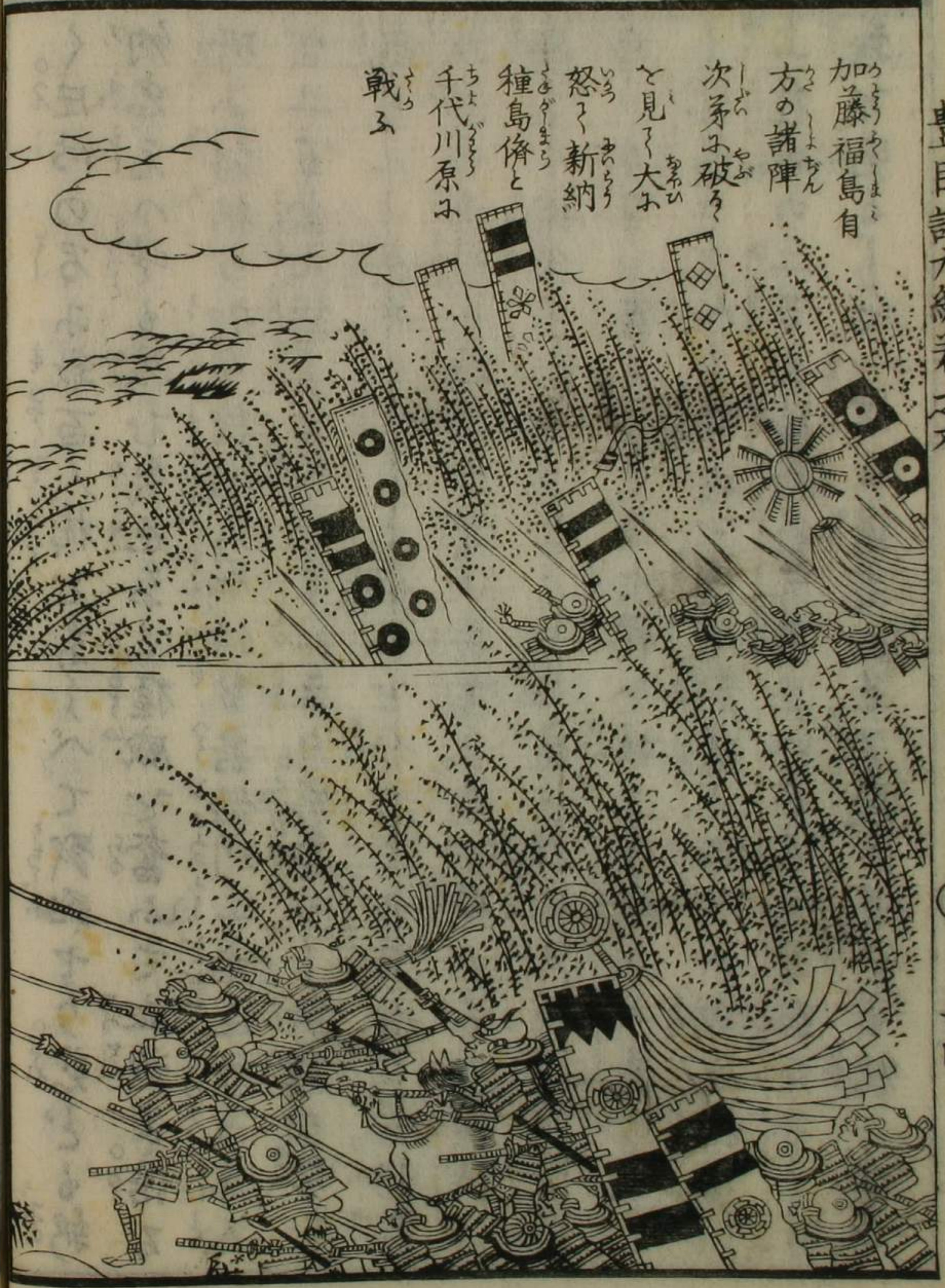


火のおとく攻居り且バ新納も隊伍と分る際なく、近合  
 せて戦ふところ、右の言より加後清正爆竹のごとき  
 威を示して、喚叫で奮突し、武藏守ハ尤右と表て、敵の陣  
 先の塵あるより、突崩さんとおもひ、ひらぐ。加後が  
 隊伍ハ寛勇ふして、まこし福崎小後を、りり由え、蛇の目  
 の言より破菴と三子飯人の還答と進ませ、初のおとく  
 破らんとせよといえども、新納あり、名小負加後が、種々強  
 率、壁も程、豫ふさたて、そ大地も揺ぎ、傾くわうり。横小突  
 縦小割、右小接立、尤小跑立、終、横虎怒して、戦ひり、且バ、崎  
 陣、智も、集小、お遠し、戦ひ、勇、是、この、所、と、此、勇、答、小、接、立、ら  
 且、上、言、智、と、破、る、こ、と、り、ハ、圍、と、遮、る、こ、と、さ、へ、得、ぐ、と

く、尺、時の、乃、小、数、百、人、枕、と、あ、る、べ、て、戦、死、せ、り、然、ど、も、新  
 納、忠、元、ハ、此、も、怯、む、氣、を、な、く、種、威、と、奮、ふ、て、血、戦、を、活、る  
 所、小、新、納、が、加、後、種、崎、大、胆、仔、智、答、初、川、上、尤、近、松、尾、軍、人  
 が、二、万、余、人、新、手、と、率、し、て、馳、来、り、岩、薨、り、新、納、が、智、と  
 救、え、ん、と、種、崎、ハ、川、上、と、隊、伍、と、合、せ、て、加、後、と、支、え、仔、智、  
 松、尾、の、兩、智、ハ、福、崎、が、方、小、突、菴、り、死、と、煙、ん、む、る、突、戦、小  
 難、ふ、く、新、納、と、救、出、し、こ、と、と、奇、逢、と、接、合、り、り、ち、武、藏  
 守、ハ、智、と、智、と、纏、め、ま、て、小、七、陣、と、破、る、の、疲、小、人、馬、と、志、を  
 一、休、息、さ、せ、ん、と、後、辺、と、當、て、引、退、く、跡、小、ハ、松、尾、仔、智、川  
 上、種、崎、の、二、万、余、騎、雜、答、史、率、小、の、つ、ら、ま、で、耻、を、本、と、し  
 幾、と、先、と、し、て、一、足、も、退、か、こ、そ、子、殿、る、と、ど、も、祝、こ、と、と



加藤福島自  
方の諸陣  
次矛子破る  
と見え大ふ  
怒る新納  
種島脩と  
千代川原ふ  
戦ふ





う忍りてむ死を且ども弟こそを助る所なく。自分の  
 屍と踏蹴りて。横刺怒突の所行へ。彼小勇も活きこと九  
 段。双の別名。且ども。福崎加茂の西将ハ。豊臣家の殺  
 拵にして。武勇絶倫の猛将あり。ゆえ。こそ。小佐。不名。率。併  
 までも。葉弱。微力の。族。敵ハ。なく。あ。と。さ。さ。今日。の。合。戦。ハ。  
 薩。及。武。士。と。初。て。の。手。合。せ。ゆ。え。互。小。背。甲。せ。ま。せ。ま。し。も  
 の。と。退。つ。返。し。つ。子。用。万。合。殺。る。冲。て。於。率。と。犯。し。刺。声。响  
 て。金。滿。陵。も。あ。る。く。む。り。小。所。え。り。り  
 加。茂。清。正。平。智。敷。敵。大。勝。属。福。崎。勇。戦  
 世。私。小。入。る。時。ハ。名。を。も。つ。て。宝。と。し。治。小。入。る。時。ハ。命。を  
 も。つ。て。宝。と。し。進。む。時。ハ。勇。と。も。つ。て。宝。と。し。退。く。と。き。ハ

智ともつて宝とを然ハ千代川の戦ハ双方牛角の関  
 本ととも。福崎加茂ハ元來進むの軍小して。種崎伊勢川  
 上。併。ハ。退。く。べき。本。意。の。兵。也。元。動。され。ハ。宿。且。んと。是。浩  
 る。所。へ。川。向。小。磬。え。る。伊。集。院。右。弟。つ。太。丈。忠。棟。ハ。新。納  
 が。殺。刻。の。血。戦。と。心。小。危。ま。在。り。り。所。小。加。勢。の。田。將。小。戦  
 場。と。讓。り。候。辺。の。旁。へ。退。き。り。り。ゆ。え。故。の。猛。強。あり。と。察  
 して。救。を。む。ん。ば。あ。る。べ。う。く。む。と。三。子。餘。騎。と。引。率。し。流  
 の。下。の。淺。淵。と。涉。して。加。茂。が。智。の。横。渡。より。面。も。觸。ら。む  
 突。惹。り。此。時。加。茂。清。正。ハ。心。小。一。計。と。工。丈。し。は。是。ハ。崩  
 う。り。り。一。款。兵。と。福。崎。が。小。任。せ。つ。も。河。と。涉。して。推。惹  
 る。伊。集。院。が。勢。と。尾。目。小。見。え。が。了。自。方。の。勢。と。又。十。段。を



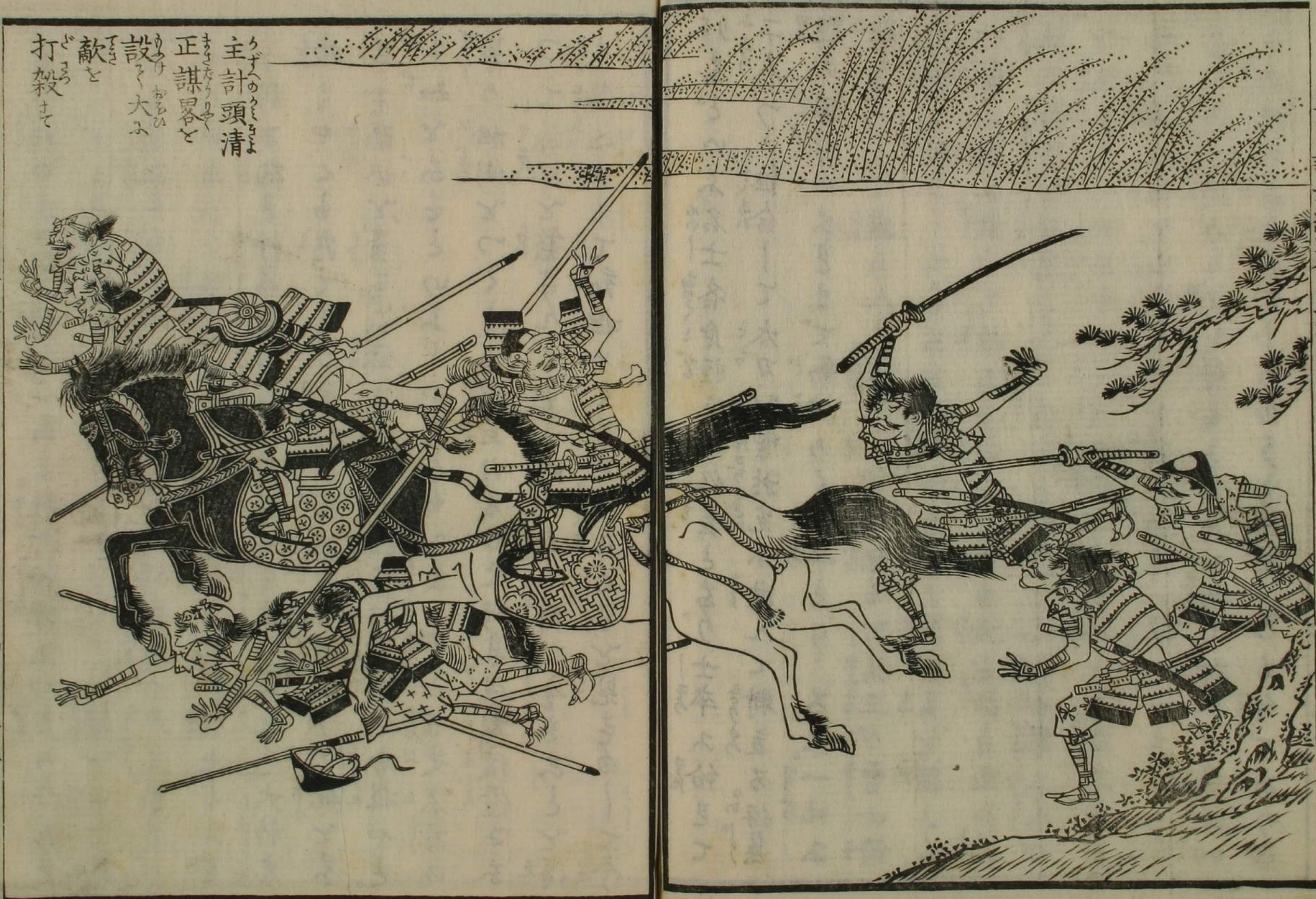




主計頭清  
正謀畧と  
設く大ふ  
敵と  
打殺す

豊臣記九編卷之六

十八



豊臣記九編卷之六



るが。此のおとく毆る。あ。此所彼所。あ。多うりり。は。又。こ。そ。身。の。士。卒。あ。と。と。く。眼。と。付。て。あ。る。不。法。正。を。双。の。勇。士。あり。最。も。戦。場。熟。練。の。人。と。あ。は。ば。その。疾。き。こ。と。石。火。の。お。と。く。抜。つ。突。り。つ。斬。立。り。る。不。ぞ。了。得。不。猛。き。伊。集。院。の。三。子。余。人。も。あ。立。て。散。乱。を。大。將。忠。棟。を。や。く。も。あ。て。と。り。丈。の。故。名。の。自。方。不。混。と。て。仇。と。あ。ま。ぞ。孫。伝。と。素。も。あ。嫌。さ。ら。う。あ。快。歩。の。武。者。と。あ。捉。や。と。下。知。と。あ。ま。と。の。ふ。と。い。え。ど。も。加。茂。が。勇。士。百。丈。不。當。の。軍。が。秘。術。と。つ。く。し。て。斬。立。り。る。や。え。伊。集。院。將。俊。澄。不。あ。つ。て。隊。伍。と。整。さん。と。ま。と。い。え。ど。も。再。び。全。き。あ。と。と。得。ま。忽。然。と。し。て。動。揺。め。く。不。ぞ。法。正。こ。と。と。見。ま。ぬ。し。て。今。

こ。そ。時。分。の。熟。し。と。は。菟。を。や。あ。や。と。下。知。と。放。て。は。味。津。と。吞。で。待。つ。騎。兵。加。茂。法。兵。清。同。傳。益。小。代。下。徳。阿。波。伊。集。院。酒。匂。忠。兵。衛。權。左。衛。門。等。此。子。の。選。名。一。子。余。結。怒。潮。の。岸。と。あ。ま。と。の。皆。一。同。不。喫。て。菟。り。而。角。子。面。當。る。と。よ。し。と。踏。立。跑。走。近。堀。一。勢。込。て。接。付。り。は。伊。集。院。が。兵。士。大。不。お。ど。ろ。き。危。や。放。走。せ。ん。と。ま。り。と。撞。破。大。猪。こ。と。と。あ。て。福。崎。と。伊。勢。川。上。脩。不。任。重。加。茂。が。南。の。横。際。より。咄。と。激。叫。て。突。て。入。り。自。方。と。助。り。て。戦。ひ。り。は。忠。棟。こ。と。不。力。と。得。て。放。北。の。名。と。撞。き。進。め。や。進。め。と。下。知。あ。し。り。ま。り。る。不。福。崎。正。則。の。當。の。故。種。崎。と。遊。ば。ま。し。と。陰。取。整。し。ま。先。小。進。ん。で。退。菟。を。は。主。不。あ。る。不。後。る。

事記に記す

十七



赤と桂市兵衛可児才造大橋甚右衛門長尾隼人大崎玄  
 蕃尾園石見守侍唄く声して種崎が隊の後不食付と  
 り。こま不周て大膳へ侍集院と救得む取て返して福崎  
 不突て菟りりふより。加茂が勇士等まむく。繞る種  
 勢烈しく退まいく。遂に侍集院が軍勢と川原近く退逼  
 たり。浩る研え七隊の先陣初め故軍と懐り松浦大村秋  
 月統案一手とあつて南方より種崎の横際へ漫然と一  
 て突菟り川上松尾侍勢もろとも不構付よと叫たりよ  
 むより。正悪ふあつて攻立りまは福崎が勢はいよく  
 繞る種崎が軍勢と一町むり退またり。佐々比方の侍  
 集院へ加茂が勢不退逼らま河原不逼る研不忠棟が殺

脇の勇良甚目権太左衛門新右衛門二騎お並で取て返  
 一。加茂が勇士巽田孫右衛門が正斜不進まきとると目不  
 うけ吐炮のおとく突て菟り。進ませまどと遮えとらそ  
 の際不侍集院へ手勢と率て河を渡り京泊苗て引退く。  
 甚目及田の両勇士の主と安くと落しやり際く不死し  
 て。名と千代川不渡ふしてり。左右の軍不侍集院をて  
 不懸前ととあくとまると。是まで疲と愈せし新納武  
 藏守忠元へ侍集院種崎侍が。病まんとまるとまるとり  
 不えて吾隊の兵士へ己不まつとく。身体健ふありりら  
 由え。先や菟とと手勢と操出し。とづり。正先不馬と跳  
 らせ勝驕る福崎が言正中へ刺て入り。例の鉄棒と大

豊臣言ノ終卷之六

十六



火車くわしやう橋はしのおとくおとくふふ赤あか揮うり。磯いそ石いし山さんも拵う碎くりん獲と威いをを發はつ  
し。暴あ立れるるこそ怒おりり也

後本豊后勅切記九編卷之六了



